

スタジアムホスピタリティの向上のための地域密着応援型 チアリーディング事業のビジネスモデルの開発と試行

トップスポーツマネジメントコース

5006A308-5 井上智恵子

研究指導教員：平田竹男教授

トップスポーツマネジメントは「勝利」「普及」「収益」のトリプルミッションから成り立っている。ところが、プロ野球は、プロ野球チーム名が「企業名」を表示することから、「企業名」をアピールする広告媒体としての側面が重視されてきた。このため、プロ野球ビジネスの「収益」やプロ野球スポーツの「普及」対しては十分な企業努力が行われてきたとは言い難い状況にあった。ところが、現在、プロ野球球団はビジネスとしての収益の向上や、地域貢献活動が強く求められている。

そこで、プロ野球球団は、プロ野球ビジネスの収益性向上やプロ野球の普及活動を行なおうと考えるが、プロ野球の普及活動や地域密着活動は、プロ野球球団に収入をもたらさず、普及活動や地域密着活動のコストがプロ野球球団の収益を減少させる要因となってきた。プロ野球球団が「収益」の向上を求める場合、「収益」に明確に貢献できないコストの支出については二の足を踏まざるを得ず、必要最低限の支出で行う「普及」活動や「地域密着」活動は投入する資金に見合う十分な効果を上げることができないという悪循環となってきた。

本稿は、東北楽天ゴールデンイーグルス(以下、東北楽天と言う。)の地域密着応援型のチアリーディング事業である「東北ゴールデンエンジェルス」(以下エンジェルスと言う。)の設立運営を通し、地域密着応援型のチアリーディング事業が、プロ野球ビジネスの「勝利」「普及」

「収益」のトリプルミッションを拡大均衡させ、トリプルミッションを好循環させることが可能かどうかを研究する。

エンジェルスのチアリーディング活動は、TOP チームであるエンジェルスのホームゲームにおける各種パフォーマンス、チアリーダーズの地域における応援活動、ジュニアチアリーダーズの地域におけるスクール活動及びホームゲームにおけるパフォーマンスである。

これらのエンジェルスの事業が仙台を中心とする東北地域において、東北楽天の「普及」に貢献したかどうかを新聞・雑誌等の紙媒体の取り扱いを調査し、その効果を検証する。また、ジュニアチアリーダーズの活動状況、及び、保護者のアンケート調査を分析することにより、ジュニアチアリーダーズの活動がプロ野球の収益及び地域貢献に効果を上げたかどうかを検証する。

更に、エンジェルスの事業がプロ野球のトリプルミッションを好循環させる可能性のあるビジネスモデルであるかどうかを検証する。

以上の検証の結果、エンジェルスの行う地域密着応援型チアリーディング事業は、仙台を中心とする東北地域において、東北楽天の「普及」につながるパブリシティ効果を上げるとともに、ジュニアチアリーダーズの活動が東北楽天の収益に小さいながらも貢献し、ジュニアチアリーダーズの保護者を中心に地域貢献活動としての評価を受けていることが明らかとなった。